

笑顔を咲かせるステージ エブリバディ☆踊っちゃおう！

見る人のハートを鷲掴み
大人も子どもも魅了するパフォーマンス

平田 明子 さん（三郷）



燃焼のまま仲裁してしまおうと、モヤモヤが残ってしまいます。だからお互いの感情が完全燃焼するまでそっと見守り、タイミングを見て子どもの気持ちに寄り添い、お互いの言い分を聞くことが大切です。当たり前前のことで

ケロポンズの結成前は保育士をしていました。初めて担当したクラスはイヤイヤ期真最中の2歳児。ある日、靴が履けないとかんしゃくを起こしていた子の靴を履かせたら、余計大騒ぎに。その理由は、私に履かされたからでした。この出来事から「できないことは、できるようにするためのチャンス」であって、一つ一つ小さな経験を積み重ねていくことが子どもの栄養になるということ、そして大人はそれをサポートすることが大切ということに気付かされました。また、けんかの仲裁も同じで、子どもたちの感情が不完全燃焼のまま仲裁してしまおうと、モヤモヤが残ってしまいます。だからお互いの感情が完全燃焼するまでそっと見守り、タイミングを見て子どもの気持ちに寄り添い、お互いの言い分を聞くことが大切です。当たり前前のことで

歌や体操の「楽しい」の基準

子育て世代から絶大な人気を集め、「エビカニクス」でお馴染みの2人組音楽ユニット・ケロポンズ。ポンちゃんこと平田明子さんに、大切にしていることを聞きました。

家族が笑顔になれるコンサート

すが、この子にも意思があって、みんな立派だなと感動しました。こういった経験が今の原点になっています。その子たちが何をしたら喜ぶか、どんなことをしたら楽しめるかを思い描きながら歌や体操を考えています。

2012年に安曇野に移住したところからYouTubeで「エビカニクス」の再生回数が上がり始め、CDの発売、メディア出演と、多忙な生活となりました。一時は東京へ引っ越すことも考えましたが、子どもたちから「安曇野に友だちもできたし、安曇野でがんばる」という言葉をもらったことで、コンサートや収録がある時にはファミサポを利用したり、さまざまな人に助けられたりしながら暮らしてきました。「我が子も頑張っているのだから、私もがんばらない」という気持ちで仕事に奮闘しました。

最近のコンサートでは赤ちゃん連れのお客さんも多く、お客さんに一緒に楽しんでもらえるよう、歌はその時のお客さんの反応を見て微調整しています。以前、最前列にいた1人の子がダンスを踊らなかつたことがありました。でもそれは、その子にしてみればやりたくなかつただけのこと。みんなが同じことをしなくても、それぞれが自分



エビカニクス
(YouTube)

広島県出身。当初「トラや帽子店」のメンバーだった相方のケロちゃんのミュージックパネルセミナーのピアノ伴奏を引き受けたことがきっかけでケロポンズを結成。代表曲エビカニクスはYouTubeの再生回数1.4億回。現在も全国各地で活躍中。

5年ぶりの催行 舟を転げ壊す奇祭

4月28日 岩原山神社お舟祭り



担ぎ手不足などで神事のみで開催が続いていた岩原山神社のお舟が5年ぶりに担がれ、披露されました。本年は性別、地区の枠を超えて担ぎ手を募集したところ17人の参加者が集まりました。この祭りは、市内で唯一の担ぎ舟を奉納する市無形民俗文化財。当日は、50人の担ぎ手が「わっしょい」の掛け声を響かせ、重さ1トンの舟を国営アルプスあづみの公園から岩原山神社までの900mの坂道を担ぎ上げました。

長野市から親子3人で参加した宮澤秀明さん(75)は、「舟を担いで転げ壊すという伝統ある祭りに参加でき、地元の人たちと交流できて思い出に残る貴重な体験になった」と笑顔で話してくれました。

春風に思いをのせて 歌い継ぐ

4月29日 第41回早春賦まつり

安曇野に春を告げる第41回早春賦まつりが穂高川右岸の早春賦歌碑前で開かれました。本年は5年ぶりの通常開催となり、お茶やまんじゅうのふるまいと出店が復活し、にぎわいを見せていました。ステージでは、穂高北小学校・穂高南小学校の児童や穂高文化協会コーラス部の合唱、ふるさと観光大使の上松美香さんらによるアルパ・ミニハーブ演奏と続き、最後は出演者全員で「早春賦」を合唱。時代を超えて多くの人に歌い継がれる「早春賦」が晴れ渡った春の安曇野に響き渡りました。実行委員長の中田光男さんは「本年は早春賦歌碑ができて40周年。このイベントを通じて早春賦の詞と曲を後世に伝え、交流の輪を広げたい」とあいさつしました。



大会新記録！2年ぶりの優勝

4月27日 長野県市町村対抗駅伝・小学生駅伝



県市町村対抗駅伝が松本平広域公園陸上競技場を会場に行われ、選考会で選ばれたメンバーが懸命な走りでタスキをつなぎました。中学生を含む一般男女で9区間を走る市町村駅伝は過去最高の3位。小学生駅伝では61チームが出場する中、安曇野市は16分2秒と2年前に初優勝した時のタイムを大幅に更新する大会新記録で優勝を果たしました。

同日行われた報告会で、一般男女の監督を務めた古川隆之さんは、「今年こそはという気持ちで挑んだ結果、3位に入賞できた。選手に感謝している。小学生が優勝したことでチームとして将来が楽しみ」と白熱したレースを振り返りました。

